

ここで見られる植物：ヤブツバキ (Japanese Camellia; *Camellia japonica*)

ヤブツバキは、最も分布率の高い海岸林から山地まで日本中で広く生息する常緑樹の低木で、その高さは5～6mに達します。ヤブツバキは材が硬いことから長きにわたって重宝されており、その材は家具作りや建築に使われています。果実の種子から採れる油も重宝され、これは美容製品に使用されます。多少細長い、楕円形の葉は、ツヤのある光沢をもっています。

11月～12月や2月～4月にかけては、枝先の方にある葉のわきに赤い花が咲きます。花の色は様々で、白からピンク、斑入り、赤のものまであります。球形の果実は大きさにして2、3cmほどです。ヤブツバキの材からとれる炭は、高品質な色止め剤として布染めに使われます。